南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

われら皆　和解の器
平和の担い手

〒902-0067　那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人　W.F.バーント司教　1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2023年9月1日（毎月1日発行）　カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ　第778号（9月号）

9月の典礼暦から

十字架称賛の祝日（9月14日）と悲しみの聖母の記念日（9月15日）

十字架称賛と悲しみの聖母の祝日にあたって、二〇〇六年九月十七日に教皇ベネディクト十六世が語られたことばを思い起こしてみましょう。

九月十四日は十字架称賛の祝日、その翌日十五日は、悲しみの聖母の記念日です。この二つの祝日は、十字架の伝統的な姿を目に見えるかたちでまとめています。福音書記者ヨハネの記述は、十字架のもとにおとめマリアがいたことを示します。ヨハネは、イエスの死に際してイエスとともにとどまった、ただ一人の使徒です。

ところで、十字架の「称賛」とは何を意味するのでしょうか。恥ずべき処刑の道具を敬うことは、もしかすると人をつまずかせるのではないでしょうか。使徒パウロはいいます。「わたしたちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。

すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものです」（一コリント1・23）。しかしながら、キリスト信者が称賛するのは、すべての十字架ではなく、イエスがその犠牲によって聖なるものとした、深い愛の結果とあかしとしての十字架です。

キリストは十字架上で、人類を罪と死の束縛から解放するために、自らのすべての血を注ぎました。そのために、十字架は、呪いのしるしから、祝福のしるしへと、死を表す象徴から、最高の愛を表す象徴へと造り変えられました。この愛は、憎しみと暴力に打ち勝ち、不滅のいのちを生み出します。典礼はこう歌います、「わたしたちの唯一の希望である十字架よ」（O Crux, ave spes unica!）。

福音書記者は、十字架のそばにマリアが立っていたと述べます（ヨハネ十九・23－25参照）。マリアの悲しみは、御子の悲しみと一つのものです。それは信仰と愛に満ちた悲しみです。カルワリオ（されこうべの場所）で、おとめマリアは、自らの「おことば通り、この身に成りますように」（フィアット）を御子の「御心のままに行ってください」（フィアット）と結びつけることによって、救いをもたらすキリストの悲しみの力にあずかりました。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。霊的な意味で悲しみの聖母と結ばれながら、神に対してあらためて「はい」といおうではありませんか。神はわたしたちを救うために十字架の道を選ばれました。

それは世の終わりまで働き続ける、偉大な神秘です。この神秘はまた、わたしたちの協力を求めます。マリアの助けによって、わたしたちが日々十字架を担い、イエスに忠実に従って、従順と犠牲と愛の道を歩むことができますように。

Naha Dicocese 54th Summer Camp

Fr. Joseph Bui Duc Dung
Naha Diocese – Youth Director

Every year, when summer comes, We in Naha Diocese always prepare for the "Summer Camp". This year's Summer Camp theme is " Walking Together". The theme was chosen from Pope Francis calling on the way of synodality.

Remember, in May of 2021, Pope Francis did an amazing and unprecedented thing. He called on every member of the church around the world to become participants in the "Synod on Synodality". Synodality which means "walking together". Pope Francis intention here is that the journey of this synod being a shared journey begins from all members at the diocesan level sharing and reflecting together. An important journey towards our Future.

As Bishop Wayne spoke in his invitation for the Summer Camp. " The Summer camp is also considered an integral part of the faith education of our children". Heeding to the Pope's calling and our Bishop's message, we invited and sent application forms to all the children in all the parishes of the diocese and gathered them for this Summer Camp 2023. The Summer Camp for primary school was on July 29 with 24 children in attendance and held at mission beach. And for the Junior and Senior High School batch there was a venue change due to the recent typhoon from Mission Beach to Asato Catholic Church on August 12 and was participated by 22 students.

As in-charge of the summer camp this year, I would like to thank very much our Bishop, priests, sisters and all Naha diocesan parishioners, Knights of Columbus (council Okinawa Japan) for the love, prayers, support and cooperation to have a safe and enjoying Summer camp.

I would like to extend my gratitude to all the parents who allowed their children to join the summer camp. Also am thankful to all the participants who came to share their journey. Hopefully, we wish to see all of you again next year for the 55th Summer Camp.

I also would like to thank the small group of youth of Naha diocese, in helping me to organize this Summer camp.

Finally, Let us give thanks to God for his guidance and protection to make this year Summer Camp a successful one.

ニュファ産

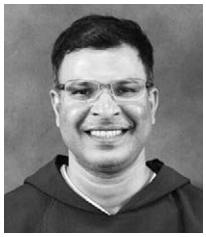
毒麦から学べること

マキシム・デソーザ神父
小禄教会　主任司祭

司祭になった時から毒麦と良い麦のたとえ話を何回も説教したのですが、最近になって分かったのがマタイ十三・30にある主人の言葉です。「収穫の時まで放っておきなさい。」なぜ主人は毒麦を直ちに抜き集めることに反対したのかということです。やっと主人の気持ちがわかる気がしました。素直に考えると当然毒麦の存在は良くないと思うのですが、もっと深く考えてみると、その毒麦のおかげで我々の、人生に対する見方、生き方、ビジョンなどが確かに変わっていく気がするのです。

私は三歳のころ保育園に通いたくなかったのです。先生が厳しかったからではなく、母の愛情があまりにもよかったからです。私にとって保育園よりも家の環境がよかったのです。しかし母は、保育園に行かなければ読み書きもできなくなるからどうしても保育園に行きなさいとしかりました。

とにかく私にとって保育園は毒麦のような存在でしたが、今考えると、あの時の毒麦が今は人生を楽しく過ごすことにつながっているようで、毒麦の存在はいつも悪いと結論を出してしまうと、人生に大きな過ちを犯すこともありうるということに気づきました。我々の人生を豊かにするためには、若い時の毒麦のような苦労や困難なども必要ではないかと思います。子供たちの人生に苦労や困難などが次々に訪れるとき、正直、親たちが子供を守りたくなる気持ちもわかりますが、将来のことを考えたら、その苦労が力になって変わっていくことも親たちは意識しなければなりません。子供たちの実力がわかったら、親が後ろから支える形をとれば、子供たちは努力して成長していくのではないかと思います。



日本に来て十七年たちました。最初の一年は沖縄で、二年目は埼玉の熊谷でした。熊谷は暑いところです。二年目の日本語の勉強を終えると沖縄に帰ろうとも考えたのですが、沖縄の温かい環境にいると精神的に、身体的に強くなれるかと思い、埼玉教区で働くことを選択しました。もちろん沖縄が嫌いだからでなく、人間的にもっと成長したかったからです。そういう意味では、人生、好きなところにいるのもいいけど、違うところにいっていろいろ挑戦し、経験していくのも、また一つの考え方です。本土の生活を見てきているから沖縄での生活は私にとって楽園です。今はメンタル的にも、身体的にも強く感じています。大人になっていく上ではいろいろな経験が必要だということを感じています。

皆さん入院したことありますか。ひどい病気にかかったこともないでしょうか。それはそれでいいと思いますが、実は病院で生きるか死ぬかの状態に陥った方の経験を聞いたことがあります。「神父様、あの病気のおかげで私の人生が一変しました。あの病気の経験がなかったらこんなに人生を楽しめなかった。本当にあのような経験をくださった神様に感謝しています。人生を悲観的ではなく楽観的に見られるようになりました。」毒麦からもいろいろな人生のレッスンを教えられていることがあることに気づきました。

極端なたとえになるかもしれませんが、教会では偉大な聖人たちの中に、殉教者たちもおられます。神さまのために殉教するということは恵みとして見ないといけないのですが、これは誰にでもできることではなく、定められた人たちにしか与えられていないのです。八月十四日、教会はマキシミリアノ・コルベ神父の殉教を記念しました。人のために命を捨てること、これ以上に大きな愛はないといわれたみ言葉を、この聖人が自分の命を捨てることによって明らかにしたのです。この話のどこに毒麦があるか。ナチスの残酷な迫害がなければ、殉教者コルベ神父も生まれなかったでしょう。残酷な迫害があったので、今日、世界中にマキシミリアノ・コルベ神父が輝いています。

旧約聖書のヨセフの物語は誰でも知っています。兄弟たちがヨセフを殺す計画を立て、最終的にエジプトに行く隊商に売り払います。ヨセフから見ると兄弟たちの態度が毒麦なのですが、神様の観点からすれば、輝く将来のために彼の人生に毒麦を許されたことがわかります。後にヨセフ自身が父親をはじめ、兄弟たち、エジプト国民まで救う人間になったのです。国の指導者、責任者、救い主になるためにどうしても毒麦に出会う経験がヨセフにとって必要だったのでしょう。その経験がいいとは言いませんが、それなしには喜びの人生、意味深い人生は考えられません。神さまが我々の人生に毒麦を許されたら、それは我々の人生を滅ぼしてしまうためではなく、輝かしい人生にするためでしょう。

我々が通っている教会あるいは仕事場には、毒麦がないことはないのです。あの人がいなければもっと教会に協力したのにとか、もっと快く働けたのにと思っていませんか。そのような気持ちはわかりますが、神様がわざとあなたに合わない、あなたの意見に反対する人を置かれたのです。神様ひどい、と言われたらそうなのですが、実は神様はあなたの豊かな人生、深い人生を求めているからあのような人間を置かれたのです。あの人の存在が私の人生に必要なのでしょう。あの人のおかげで私は人生に何よりも必要としている価値観というか、忍耐強い気持ちを育てることができました。ですから無駄に毒麦を抜き集めることはしないで、よい麦として成長するためにどのように毒麦を使えば良いか考え、毒麦の存在がいつも悪いと見るのではなく、人生を輝かせるために与えられた道具として見ることができれば幸いです。

2023 年のサマーキャンプに感謝！！

サマーキャンプ担当司祭　ヨゼフ・ブイ神父

毎年、夏休みが来ると、私たち那覇教区の信徒はサマーキャンプの準備をします。 2023 年の今年は「ともに歩む」をテーマに掲げて準備をしました。このテーマは教皇様からの呼びかけによって選ばれました。

2021 年 5 月、教皇フランシスコは驚くべき前例のないことを行いました。彼は世界中のすべての教会員に「シノダリティに関するシノドス」の参加者になるよう呼び掛けました。「シノダリティ」とは「ともに歩む」という意味です。教皇フランシスコの意図によれば、このシノドスの旅は共有の旅であり、教区レベルのすべてのメンバーから始まる共有と考察は、未来への旅であるシノドスの重要な部分であります。

そして、私たちのウェイン司教様からの招待メッセージでも、「…サマーキャンプの時間も、私たちの子どもたちの信仰教育の不可欠な部分であると考えられます」とあります。

教皇様の呼びかけと司教様のメッセージに耳を傾けて、教区内のすべての小教区に子どもたちへの招待状と申込書を送り、サマーキャンプへの参加を呼びかけました。

今年の小学生向けのサマーキャンプは、7 月 29 日（土）にミッションビーチで 24 名の子どもたちが参加して開催されました。しかし、7 月末から 8 月初めに、台風がミッションビーチを襲ったため、中高校生向けのサマーキャンプは当初計画の 8 月 5 日（土）から一週間延期し、場所も変更して 8 月 12 日（土）に安里教会で行われました。22 名の子どもたちが参加しました。

今年は 2 つの小教区からはサマーキャンプへの参加がありませんでしたが、最も遠い石垣教会から小学生（3 名）と中学生（2 名）が参加してくれました。石垣教会からの子どもたちは泡瀬クララ館に宿泊し、泡瀬教会の信者の皆さんが空港やミッションビーチへの送迎と食事のお世話をしました。

今年のサマーキャンプの責任者として、私たちの司教、司祭、シスターたち、那覇教区の女性の会の皆さん、Knight of Columbus（Okinawa）、全ての信徒の皆さんの愛、祈り、そして支援に心から感謝したいと思います。今年のサマーキャンプを成功させるために協力してくださった皆さま、ありがとうございました。

また、サマーキャンプに参加した子供たちや付き添いで来られた保護者の皆様にも感謝申し上げます。来年のサマーキャンプ（第 55 回）でお会いできることを願っています。

さらに、このサマーキャンプの運営に協力を惜しまなかった那覇教区の青少年グループにも感謝したいと思います。

最後に、今年のサマーキャンプが楽しく安全なものとなるように導き、私たちを守ってくださった神様に感謝します。

REFECTORY
神に感謝
右に歩む

第54回(2023年)
右に歩む
2023年(54回)
中・高生

右に歩む
2023/08/12

たて軸よこ軸

私が教会に通う理由

安里教会　具志堅　毬亜

私は妹と祖父祖母と一緒に教会に通っています。幼い頃は、教会に通う理由や意味などは考えていませんでした。ただ、祖父と祖母に連れられて行っているという感覚でした。しかし、大学生になった今では、教会に通いたいという明確な理由ができ、自ら教会に通い、侍者をして祈りを捧げに行きたいと思うようになりました。

私が教会に通う理由は主に二つあります。一つは、聖書の教えに触れるためです。教会で聖書を読むことで、普段の生活で困難な状況にあったり、難しい課題に悩んでいたりする時に心の支えになります。たとえば、「隣人を愛せよ」という教えは、他人への思いやりと共感を育むための言葉です。人間関係で悩んだ時にこの言葉を心の中で思う事で、落ち着くことが出来ます。

ヨハネの福音書十三・34－35には、「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」とあります。これは、他人を愛し支え合い、愛し合う事の大切さを教えています。生きていく中で誰かに対して妬みや嫉妬を抱いて、この人には負けたくない、従いたくないと思う事は多々あります。しかしそんな時に、心の中でこの言葉を思うことによって、イエス様は私を愛してくれている、私も人を愛して支え合いの心を大切にしようと思うことが出来ます。

教会で聖書の教えを学ぶことによって、日常生活の選択や行動の手助けとなります。

教会に通う理由の二つ目は、教会の人達との交流のためです。教会での集まりやイベントを通じて、多くの人と関わって会話をすることが出来ます。私は毎週ミサが終わると、同じく教会に通う人達や子供たちと会話をします。私は幼い頃から教会に通っている為、私の事を知って気にかけてくれる方が多くいます。そんな方達と最近の学校生活について話したりすることが教会に通う楽しみでもあります。

みんなとても優しくて、私はとても恵まれているなと感じます。こうした交流を通じて、人と関わることの素晴らしさを実感することが出来ます。

教会に通う中で多くのことを学んできました。教会で学ぶことの一つには、謙虚さや感謝の心があります。フィリピの信徒への手紙四・6－7には、「何事でも、感謝をもって祈りと願いをささげ、あなたがたの求めることを神に知らせなさい。すると、すべての理解を超えた神の平安が、キリスト・イエスにあるものを守って、あなたがたの心と思いとを守るでしょう」とあります。この言葉は、祈りと感謝を通じて心の平和を得る方法を教えています。教会での礼拝や祈りを通じて、感謝の大切さや物事を前向きに捉える力を学ぶことができます。

この言葉のおかげで、食事をする時や買い物をする時、友達と話す時全てを当たり前だと思わずに、感謝の心を持とうと思う事ができます。

さらに、詩篇三四・18には、「主は心の砕けた者に近く、心の傷ついた者を救われる」とあります。これは、教会が心の痛みや困難に立ち向かう人々にとって、力強い支えとなることを示しています。教会は悲しみや苦しみを共有し、互いに癒しの手を差し伸べる場であります。教会で神様や人と交流して、話したり共に祈ることで、悩んで苦しんでいた心が少し楽になります。そして、希望を持ち、前向きな心を育むことが出来ます。

教会で学ぶことの二つめは、自己成長と他人への奉仕の精神を育むためです。教会での活動を通じて、人に物事を教える方法や奉仕するとこの大切さを学ぶことができます。私は、幼い頃から侍者としてミサの進行をお手伝いしています。今となっては小さい子に教える側となっています。子供たちはとても素直で可愛らしく、教えがいがあります。子供たちが侍者を上手く行っている姿を見るととても嬉しく思います。

この文章を書きながら、改めて教会に通う理由や意味について考えさせられました。

教会は聖書の教えに触れ、普段自分が感じている疑問や不安を解決する場所であり、また、教会は共同体の場であり、人々をつなげ協力の大切さを教え、思いやりの心を育むことができます。さらに、教会で学ぶことによって、感謝の大切さや物事を前向きに捉える力を持つことができ、自己成長や他人への奉仕の精神を学ぶことができます。また、教会が人々の困難や試練に対して支えとなる存在であることを再認識しました。今後も教会で侍者を続けたいです。

教区NEWS教会

パックカカイサ会
（フィリッピン信徒の集い）
宮古島平良教会

当教会には、フィリッピン信徒の集いパックカカイサ会があります。シスター・テリーの指導のもと、お互いに交流をはかり、教会の典礼や活動に積極的に参加しています。

先月、シスター・テリーの修道会の評議員シスター・ジョアンが来島なさいました。同じ郷里のシスターをお迎えした信徒の喜びはいかほどであった事でしょう。あまり郷里に帰省できない信徒にとってフィリッピンの様子をいろいろとシスターに尋ね、又、シスターは、信徒に対し宮古島の環境や生活のことなどお聞きになったようです。めったにない郷里のシスターとの交流をとおし、平良教会の共同体の絆がますます深まり豊かになることを、喜びのうちに過したフィリッピン信徒のひとときでした。（かさね通信員）

同じ郷里のシスター・ジョアンを囲んで

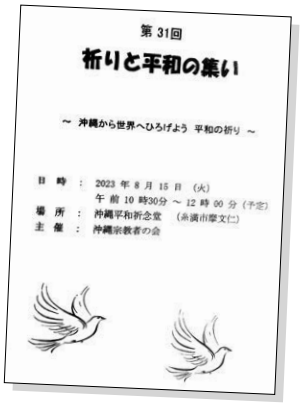
パックカカイサ会の皆さん

司教訪問
首里教会

被昇天の聖母を保護者にいただく首里教会では、その祭日に当たる八月十五日前後の日曜日に合わせて、司教訪問をお願いしています。今年は八月十三日の主日のミサを主式いただき、主任のボスコ神父様が準備を担当して養成を行った四人の方が司教様に堅信の秘跡を授けていただきました。また、当教会から応募して要請を受け、フィリピンへの派遣が決まった東さよみさんに、ミサの終わりに司教様から特別に派遣の祝福をいただきました。ミサ後は信徒たちとの懇談の場を設け、限られた時間ではありましたが、楽しく、有意義な司教訪問となりました。（新田通信員）

祈りの集い：平和祈念堂

終戦記念日の八月十五日、糸満市摩文仁の平和祈念堂で、三十三回目となる沖縄宗教者の会による祈りの集いが開かれた。コロナ禍で二回中断があったため、記念堂に集っての開催は三十一回目であるとのことであった。那覇教区からはウェイン司教の他、担当司祭のクレーバー神父と、与那原のシスター方と信徒も集い、共に恒久平和を願って祈りを捧げた。（平和委員会）


第31回
祈りと平和の集い
～ 沖縄から世界へひろげよう 平和の祈り ～
日 時 ： 2023年8月15日（火）
午前10時30分 ～ 12時00分（予定）
場 所 ： 沖縄平和祈念堂 （糸満市摩文仁）
主 催 ： 沖縄宗教者の会

長崎教区
高校生の平和学習

コロナ禍で中断されていた長崎教区の高校生のための平和学習が、三年ぶりに再会された。

この間に長崎の前任者高見大司教も引退され、後任となった中村大司教と新しく担当司祭となった鍋内神父、引継ぎのため、前任の岩村神父も同道され、二泊三日の日程で戦績や資料館を見て回り、平和への願いを心に刻んだ。また、最初の宿泊先では名護教会で、二日目は安里教会で朝ミサに与って、平和な世界の実現を祈り願った。

一般公開講座のお知らせ

福岡カトリック神学院 一般公開講座 キリスト教概論Ⅱ

2023 年度後期（9 月～ 2 月） 2 単位（90 分 ×15 回）

前期に引き続き、後期もキリスト教についての学びを継続しましょう。

今回の「キリスト教概論Ⅱ」は、前期に開講された「キリスト教概論Ⅰ」をふまえた内容になっています。そのため、基礎的内容を扱う段階から一歩進んで、応用的内容を扱うことになりますが、「キリスト教概論Ⅰ」を受講されておられなくても、ご希望の方は、どなたでも受講できます。

将来、洗礼を考えておられる方、また既に洗礼を受けキリスト信者として生活しながら、キリスト教のことをもっと知りたい、深めたいと考えておられる方、あるいはキリスト教関係の学校、病院、施設等で働いておられる方々を対象にした内容になっています。各分野の専門家が、キリスト教信仰の内容を分かりやすく解説いたします。講義中には、質疑応答の時間も設けてあります。どうぞふるって、ご応募ください。

皆様と、講義でお会いできますことを神学院のスタッフ一同、心からお待ち申し上げております。

講義形式：土曜日 14：00 ～ 15：40（途中 10 分休憩）
①対面（福岡市城南区松山 1 － 1 － 1 福岡カトリック神学院新館ホールにて）
②動画配信（後日、当日の講義の様子を登録者のみに限定動画配信します）
定員：30 名（申込先着順）、申込み・問合せは（fukuoka.seminary@gmail.com）まで
応募締切：2023 年 9 月 23 日土曜日

訃　報

ゼノン・イエール神父様（サン・スルピス司祭会 ）

カナダ・モントリオールで 2023年8月12 日(土)19時23分モントリオールのスルピス会カナダ管区本部の居室で、老衰のため帰天されました。享年99歳でした。

どうぞ、日本をこよなく愛し、日本での司祭養成のためにご尽力くださったイエール神父様の永遠の安息のためにお祈りください。

NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション **クララ**

TEL&FAX:**098-937-5001**
住所　沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付　月曜日～金曜日(申込、相談など)
・営業時間　8:30～17:30
・営 業 日　24時間365日(緊急対応含む)

葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～

葬　典　社（そうてんしゃ）

＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）

24時間受付

☎098-853-1059（てんごく）